

オーストリア グロースグロックナー 山行報告

グロースグロックナー：ホーエタウエルン国立公園内 オーストリアの最高峰 標高 3,798m

山行日時：令和1年（2019年）8月4日～5日

参加者：溝尾 幸一・岡村 繁雄

行程〔4日〕：カルス（アパートメント）5：00 発 レンタカー移動 ⇒ 登山口〔ルックナーハウス〕5：30 発
→ スチューデ小屋 8：25 着 8：55 発 → バリエーションルート取付き 11：00
→ グロースグロックナー山頂 16：30 着 17：00 発 → ヨハンヒュッテ 18：20 着泊

行程〔5日〕：ヨハンヒュッテ → スチューデ小屋 → 登山口〔ルックナーハウス〕

参加者：吉村 孝晴・岡村 眞由美

行程〔4日〕：カルス（アパートメント）5：00 発 レンタカー移動 ⇒ 登山口〔ルックナーハウス〕5：30 発
→ スチューデ小屋 → ノーマルルート → ヨハンヒュッテ泊

行程〔5日〕：ヨハンヒュッテ → グロースグロックナー山頂往復 → スチューデ小屋
→ 登山口〔ルックナーハウス〕

成田から約11時間のフライトで8月2日ウィーンへ到着。

乗り継ぎザルツブルグ空港でネット予約していたレンタカーを借りて一路、グロースグロックナーの登山基地であるカルス〔Kals〕のアパートメントを目指し車を走らせた。

右側通行に慣れるまで多少時間がかかるが、車が有ると無いとでは大違いである。

途中、スーパーで食料とワイン・ビールを購入し、約6時間でカルスに到着。

アパートメントのすぐそばのインフォメーションで情報を収集し、向かいの山岳ガイド事務所で、吉村・岡村Mの2名はガイドを予約。（1名300ユーロ）

中一日置いた4日、5日は天候が良さそうなので、山頂アタックすることにした。溝尾・岡村Sは、バリエーションルートをガイドレスで臨む。

全般的オーストリアの山間部は、天候が悪い日が多いとのことらしい、2日間天候に恵まれ大変ラッキーであった。



我々が泊まったアパートメント（後方2階）



山岳ガイド事務所にて（ガイドを予約）

8月4日

ルックナーハウスは、ホーエ・タウエルン国立公園の入り口で、ハウスの奥に広い駐車場がある。天気が良ければ谷間にグロースロックナーを望む事ができる。ここから登山開始である。



ルックナーハウス奥の
駐車場 5:30 出発



前方 グロースグロックナー

登山口からスチューデ小屋まで2時間30分の行程であったが、我々は途中ルートを取ってしまい、回り道して30分弱ほど余分な時間を要してしまった。

ここからノーマルルートは、右にトラバース気味に登ったところから氷河を登っていく。
バリエーションルートは、まっすぐに尾根を登る。



スチューデ小屋 [8時55分 出発]



ここから氷河に入る [9時40分]

尾根を登るとグロースグロックナーが目の前に飛び込んできた。



昨日は、大嵐だったとのことで岩峰に近づくと雪で白く輝いていた





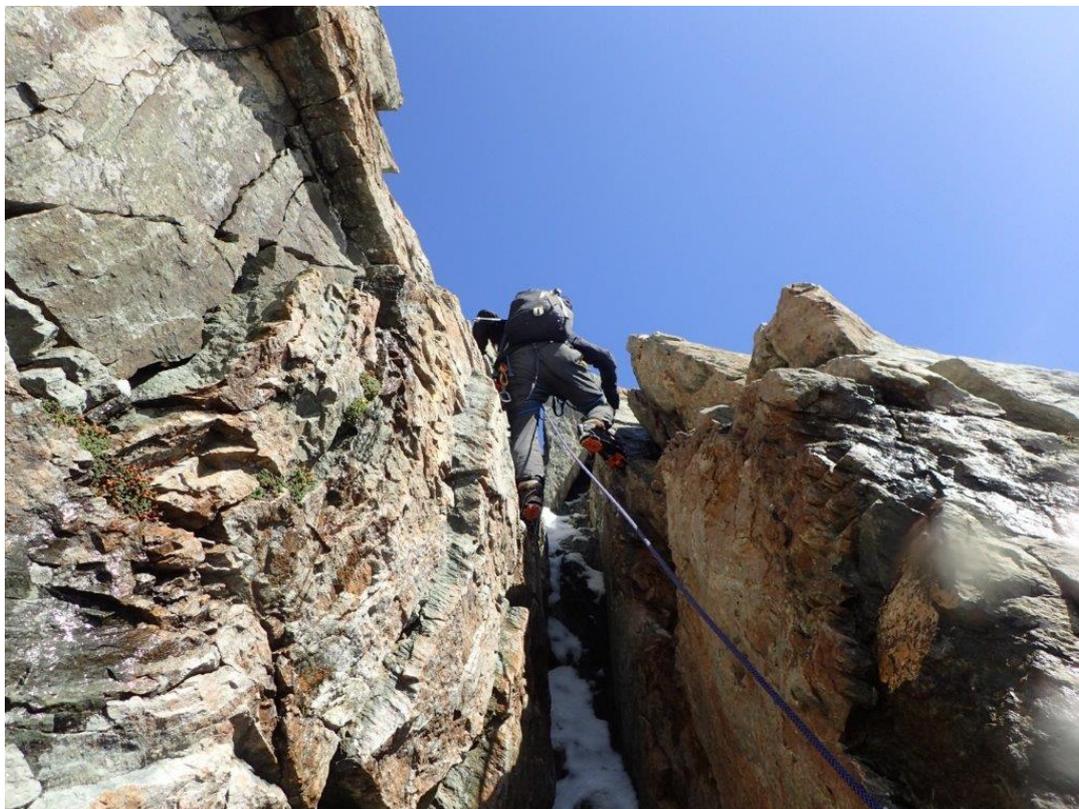
正面のリッジがバリエーションルート



このすぐ先が取付き

スチューデ小屋からバリエーションルート取付きまで約2時間、予定通りの行程で〔11時頃〕到着。通常無雪期であれば山頂まで3時間程度と聞いていたので、余裕を見て15時頃には山頂に着くものだと思っていた。

取付きからザイルを出しアイゼンを装着し、コンティニューアスで登って行った。岩の傾斜がきつくなってからは、つるべで登攀。積雪はあるが、かえってトレースがありルートファインディングが楽であった。



〔12時05分〕



〔13時15分〕

黄色のプレートにはドイツ語と英語で「3,550mで、ここにたどり着くために3時間以内でないと、これから先は困難が予想される」と記載されている。

スチューデ小屋を出発して4時間10分、取付きから2時間15分の時間を要していた。



[13時20分]





〔14時23分〕



ヴィアフェラータのワイヤーがセッティングされていた。

登ってみるとわかるが、結構傾斜が強くアイゼンをつけての登攀は、スタンスをよく確認しないとついワイヤーを握ってしまい腕力を不要に使う。

このルートは全般に、よく考えられ整備されているようである。

〔14時30分〕



〔14時50分〕



①. この岸壁を抜けたところが山頂〔15時40分〕

山頂近くの岩稜では、積雪も少なくなったためアイゼンを脱着。

全体に難しい箇所には、ピンやボルトで整備されており難しいところで、4級程度。

①. 写真の中央フィクスロープの箇所は、腕力で登りあがるしかなく、先行パーティ数名が疲れているのだから、ここを突破するのに時間を要しかなり待たされた。



グロースグロックナー山頂にて 3,798m [16時30分着 17時00分発]



グロースグロックナー山頂

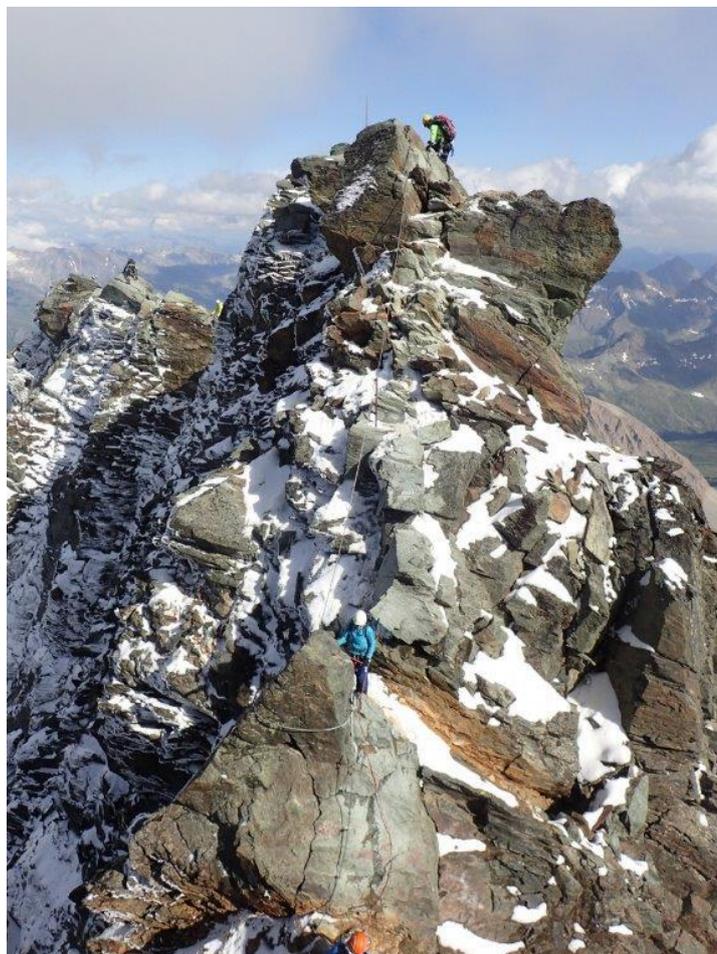


下山時バリエーションルートを望む

17時過ぎ下山時にバリエーションルートの上をまだ登っているパーティーがいた。

途中、ガイドと女性1名のパーティーを含め数パーティー追い抜いたが、明るいうちに小屋までたどり着けるであろうか。

ツアー登山だろう、なかなか前に進まず
渋滞した。



ノーマルルートを下山



ノーマルルートより下山時、山頂を望む



下山時ヨハンヒュッテを望む

ヨハンヒュッテ 18時20分着。

バリエーションルートの取付き 11時から山頂まで5時間30分を要し、登山口 [ルックナーハウス] 5時30分出発して、山頂直下と山頂からの下山時の渋滞、休憩を含み全行程 12時間50分を要した。

天候には恵まれたものの、思わぬ積雪で想定以上の時間がかかった。

ヨハンヒュッテでは、ノーマルルートの氷河から登ってきた吉村・岡村Mパーティーが我々の遅い到着を心配しながら待っていてくれた。



ヨハンヒュッテ近くからグロースグロックナーを望む

8月5日

ヨハンヒュッテを、吉村さん、女性ガイドのゲルリンデ スティックラーさん、飛び入りのクラウド ミュールボックさんの3名で6時出発、山頂へピストンで9時には、ヨハンヒュッテに下山した。

岡村Mは、前日高度障害で食事がとれない状況であったため、ヒュッテで待機し山頂アタックは断念。



ヨハンヒュッテにて 日の出直後〔望遠〕



グロースグロックナー山頂にて



ヨハンヒュッテ早朝出発



ヨハンヒュッテより下山 直後



ヨハンヒュッテからスチューデ小屋へ雄大な山々に囲まれた氷河を下山



右 ルックナーハウス、左 広い駐車場 〔 ② 〕



〔 ② 〕 左側登山道、駐車場近く手前の橋当りのお花畑 後方、グロースグロックナー

BERGERLEBNIS ÖSTERREICHS!

Mit seinen 3.798 m ist der GROSSGLOCKNER nicht nur der höchste Berg Österreichs, sondern er zählt auch zu den höchsten Gipfeln der Ostalpen.



ER ANSTIEGS-VARIANTEN:

- ④ NORDWESTGRAT IV-
- ⑤ NORDWESTGRAT mit Teufelshorn IV
- ⑥ GLOCKNERWANDÜBERSCHREITUNG IV

Seit der Erstbesteigung im Jahre 1800 sind die Kaiser Bergführer die Spezialisten wenn es um eine Grossglockner-Besteigung geht. Die Faszination liegt sowohl in seiner überragenden Höhe wie auch in seiner imposanten Ausstrahlung, die Menschen aus aller Welt magnetisch anzieht. Begeisterte Alpinisten sollten einmal am Dach Österreichs unter dem berühmten Glocknerkreuz stehen und den unbeschreiblichen Rund- und Tiefblick genießen. Sie werden mehr als beeindruckt sein!

グロースグロックナー登山ルート案内した掲示板

- ①. ノーマルルート
- ③. バリエーションルート

今回の旅は、オーストリアを4名で8月1日から21日まで、まず最高峰のグロースグロックナーを目指した。

この後は、世界文化遺産のハルシュタット・ダッハシュタインを中心にヴィアフェラータ（イタリア語で鉄の道）〔別紙 報告書作成〕と、後半は、ザルツブルク周辺で映画『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台を巡り、ウィーンでコンサートと周辺観光を予定した。

予想していたが天気が良い日が比較的少なく、クリッペンシュタイン山でヴィアフェラータは行えたが、それ以外では天候が思わしくなく残念ながら雄大な山の景色はあまり望めなかった。

後半のザルツブルクでは、郊外の『サウンド・オブ・ミュージック』ロケ場所を、レンタカーをフル活用して回り、市内は、ザルツブルクカードを購入し丸2日間主要な観光スポットを歩き回り最後の夜は、ミザベル宮殿でクラシックコンサートを観賞。

ウィーンでは、ウィーン72時間フリーパス（72Stunden Wien-Karte）を購入し地下鉄、シティバスや路面電車をうまく乗り継ぎ効率よく観光名所を回ることができた。

ただ毎日20,000歩（吉村さんの万歩計による）以上も歩き回ることとなり、山とは違った感じの疲れで、後半は皆さんお疲れ気味であったが、終わってみるとアツと言う間の山と観光であった。

令和1年（2019年）8月
岡村 繁雄